

長久手未来まちづくり 長期ビジョンにむけた4つのテーマ（修正案）

全体テーマ

人・場・時をつなぎ、夢をはぐくむ長久手
ながくてびと
—長久手人こそ私たちの誇り、みんなで未来を拓く—

個別テーマ

1 人をつなぐ／老若男女がつながる、顔が見えるまちづくり

- (1) コンパクトなまちの中で世代を超え、地域を越えて人々がつながる。
- (2) まちに誇りを持ち、自ら行動する市民が増える。
- (3) いつでも帰ってこられるホームタウンになる。

2 場をつなぐ／地域資源を見つけ、広げて使うまちづくり

- (1) 市街地の緑を増やし、丘陵地の自然を守ることにより、人々が憩える緑をつなぐ。
- (2) 集積している教育・研究機能を使いこなし、地域に引きこむ。
- (3) 市民の移動を容易にする空間と仕組みをつくる。

3 時をつなぐ／歴史文化を継ぎ、健康福祉を通じて支えあうまちづくり

- (1) 地域の歴史と文化を継承し、生涯を通じて学び成長する。
- (2) 一人ひとりが身も心も健全であり続け、健康で生涯を全うする。
- (3) 人や地域の成長に合わせて皆で支えあうコミュニティをつくる。

4 夢をはぐくむ／チャレンジする人の想いを支え、希望を育てるまちづくり

- (1) 誰もが何歳になっても役割を担いチャレンジできる。
- (2) 大学生などの若者の夢をまちぐるみで育てる。

1 人をつなぐ／老若男女がつながる、顔が見えるまちづくり

(1) コンパクトなまちの中で世代を超え、地域を越えて人々がつながる。

- ・原則歩いて暮らせる、コンパクトな市街地を形成することで、「顔が見える」まちづくりを進めていく。
- ・世代や地域を超えて、市民、市民団体、事業者、行政などが気軽に集まり、語り合うことでつながり、全市の、あるいは地域の様々な課題に対して共通認識を持つ。

(2) まちに誇りを持ち、自ら行動する市民が増える。

- ・暮らしているまちに対して誇りや愛着を持ち、長久手をより良くするために、他力本願でなく、当事者意識（まちの一員だという自覚＝シビックプライド）を持って自ら行動を起こす市民を増やしていく。

(3) いつでも帰ってこられるホームタウンになる。

- ・進学・就職・転勤・結婚などの理由で、長久手から一旦市外に出て行っても、帰ってきたいと思えるような帰属意識の高いホームタウンにしていく。
- ・暖かく送り出し、暖かく迎え入れるホームタウンにしていく。

2 場をつなぐ／地域資源を見つけ、広げて使うまちづくり

(1) 市街地の緑を増やし、丘陵地の自然を守ることにより、人々が憩える緑をつなぐ。

- ・市街地において区画整理によって減少した緑を増やすとともに、丘陵地の自然を守り、育てることにより、市内全域で人々が憩える緑の空間を広げてつないでいく。
- ・多様な生物と共生できるビオトープ（生物生息空間）ネットワークを形成する。
- ・都市と自然のバランスの取れた、都会的発展をし過ぎないまちを目指す。

(2) 集積している教育・研究機能を使いこなし、地域に引きこむ。

- ・市内および周辺に大学や研究所が集まっていることは長久手の特徴であり、その機能や空間を大人から子供まで使いこなすとともに、大学や研究所のほうから、まちに学生や教員が出て行って（これをアウトリーチ活動という）、市民とともに活動できる環境を整えていく。
- ・それは大学や研究所に限らず、長久手市文化の家、博物館、美術館などの文化拠点も市民が使いこなし、それらのアウトリーチ活動を地域に引き込んでいく。

(3) 市民の移動を容易にする空間と仕組みをつくる。

- ・市の東西方向の公共交通はリニモが運行されていることにより充実しているが、市の南北方向の公共交通が不足している。自家用車を使わず、N - バスの利便性向上や自転車、シニアカート、一般路線バスなど、また将来導入が想定される超小型車や電動二輪車など、様々な手段による移動ができるよう道路等の空間づくり、仕組みづくり（カーシェアリング等）を進める。

3 時をつなぐ／歴史文化を継ぎ、健康福祉を通じて支えあうまちづくり

(1) 地域の歴史と文化を継承し、生涯を通じて学び成長する。

- ・地域の歴史や文化などを子どもの頃から学び、伝統的な祭りなどに参加することを通じて継承し、大人になっても学び続けて成長していく。
- ・伝承や継承にむけて、高齢者等にうまく役割を担ってもらおう。

(2) 一人ひとりが身も心も健全であり続け、健康で生涯を全うする。

- ・心身の健康を維持していくために、屋内外を問わずにさまざまな運動できる場を整備するとともに、運動を支援していく体制をつくる。
- ・ウォーキングなどの軽い運動からジョギング、本格的なスポーツまで、いつでもどこでも運動することで、健康寿命（健康状態で暮らせる年数）を延ばす。

(3) 人や地域の成長に合わせて皆で支えあうコミュニティをつくる。

- ・子どもの成長や独立、親の高齢化など、人や家族の成長変化に合わせて、地域で支えあうコミュニティをつくる。
- ・そこには高齢者や身障者、子育てを見守る福祉コミュニティがあり、また地域課題を地域で解決できる、良好な人間関係を構築したコミュニティもあるが、両方の機能を持ったコミュニティづくりをめざす。

4 夢をはぐくむ／チャレンジする人の想いを支え、希望を育てるまちづくり

(1) 誰もが何歳になっても役割を担いチャレンジできる。

- ・何歳になっても役割があり、それを担うことで生きがいを育てていく。
- ・働きたい人（収入を得たい人）は何歳になっても働ける場（職）があるようにする。

(2) 大学生などの若者の夢をまちぐるみで育てる。

- ・市内に企業を誘致するよりも、若者等がやりたい仕事（小売・飲食店、サービス業、農業など）をできるように、起業支援する仕組みをつくる。
- ・顔が見える働き場をつくっていく。

第5回懇話会（分科会方式）メンバー分け及び時間配分

個別テーマ1 老若男女がつながる、顔が見えるまちづくり

- (1) 大庭卓也委員（㈱CBCテレビ）
- (2) 川合保生委員（長久手市議会）
- (3) 高柳友子委員（社会福祉法人 日本介助犬協会）
- (4) 谷沢明委員（愛知淑徳大学）
- (5) 望月彰委員（愛知県立大学）
- (6) 田一平委員（長久手市）

個別テーマ2 地域資源を見つけ、広げて使うまちづくり

- (1) 加藤義郎委員（長久手市商工会）
- (2) 久保田健一委員（ユニー㈱）
- (3) 近藤鋭雄委員（あいち尾東農業協同組合）
- (4) 佐藤啓二委員（愛知医科大学）
- (5) 細川修委員（愛知県立芸術大学）

個別テーマ3 歴史文化を継ぎ、健康福祉を通じて支えあうまちづくり

- (1) 川合保生委員（長久手市議会）
- (2) 加藤義郎委員（長久手市商工会）
- (3) 久保田健一委員（ユニー㈱）
- (4) 佐藤啓二委員（愛知医科大学）
- (5) 高柳友子委員（社会福祉法人 日本介助犬協会）
- (6) 谷沢明委員（愛知淑徳大学）

個別テーマ4 チャレンジする人の想いを支え、希望を育てるまちづくり

- (1) 大庭卓也委員（㈱CBCテレビ）
- (2) 近藤鋭雄委員（あいち尾東農業協同組合）
- (3) 細川修委員（愛知県立芸術大学）
- (4) 望月彰委員（愛知県立大学）
- (5) 田一平委員（長久手市）

【時間配分】

①午後2時 西庁舎2階第7会議室集合

※前回の振返り、分科会の進め方について説明(10分間)

②午後2時10分～午後3時 個別テーマの検討 前半(50分間)

「個別テーマ1」グループは、西庁舎3階学習室2に移動

「個別テーマ2」グループは、西庁舎3階教養会議室に移動

～休憩(10分間)～

③午後3時10分～午後4時 個別テーマの検討 後半(50分間)

「個別テーマ3」グループは、西庁舎3階学習室2に移動

「個別テーマ4」グループは、西庁舎3階教養会議室に移動

～西庁舎2階第7会議室に移動(5分間)～

④午後4時5分～午後4時30分

※各テーマで出された意見の発表(3分間×4テーマ)、総括